

デザイナーの寛裕介さんが講演 「認知症世界の歩き方」



認知症について説明する寛さん

町の「認知症サポートのフォローアップ事業」の一つとして、issue+design(特定非営利活動法人イシュープラスデザイン)代表の寛裕介さんの講演会「認知症世界の歩き方：対話とデザインの力で挑む」が12月6日、総合福祉センターで開かれました。

寛さんは、苫小牧市出身のデザイナーで、デザインを使って福祉や震災復興など社会に潜在するさまざまな課題や問題の解決策を研究・実践しています。講演会では、認知症の人の言動には、人の顔の認識ができず味覚や嗅覚が鈍化するなどとし、論理的な説明に意味がないと指摘。はい徊を例に挙げ、「会社員時代の記憶が強ければ毎朝外出し、途中で記憶があいまいになるとパニックから自分の居場所が分からなくなります」と語り、「行動の背景を考えた接し方が大切です」呼びかけました。

教育長に再任 遠藤秀明さんに辞令交付

町は12月8日、任期満了に伴い町議会の同意を得て教育長に再任された遠藤秀明さんに辞令を交付しました。

3期目を迎えた遠藤さんは「教育行政に心血を注ぐ覚悟です。ふるさとのために、引き続き頑張ります」と改めて抱負を述べました。



辞令交付された遠藤教育長

彫刻家の北村哲朗さんが 被災木の彫刻3点を町に寄贈

登別市の彫刻家の北村哲朗さんが12月8日、胆振東部地震の被災木を使った彫刻3点を町に寄贈しました。

被災木の彫刻は、一昨年12月に続き2回目。樹齢推定80年を超えたナラ材の作品名は「水脈」「風待ち」「風を集めて」。役場庁舎玄関と厚南会館、町長室に置かれました。北村さんは「震災で倒れた樹を再び立てたいとの思いがあります。作品に触れることで、記憶を記録し、新たな風を起こして欲しい」と震災復興への思いを語りました。



倒木で作った彫刻を町に寄贈した北村さん

あつまクリニック理事長の石間巧院長が 北海道社会貢献賞の受賞を町に報告

あつまクリニックの理事長で院長の石間巧さんが12月16日、町長室で北海道社会貢献賞(地域医療功労表彰)の受賞を報告しました。

平成18年から、町民のかかりつけ医として地域医療に貢献され、新型コロナワクチン接種などにも尽力していることなどが評価されました。石間さんは、すてきな笑顔と共に賞状を示し、引き続き地域への貢献を語りました。



北海道社会貢献賞を手に温かな笑顔で受賞報告する石間さん



厚真ライオンズクラブがタオルを寄贈

厚真ライオンズクラブ(高田芳和会長)は11月25日、厚真町社会福祉協議会(大橋正治会長)にフェイスタオル450枚を寄贈しました。

介護施設などで活用してもらうため、平成26年からフェイスタオルを寄贈しています。高田会長は「フェイスタオルは必需品。購入費の負担軽減を側面から支援したい」と話し、感謝する大橋会長に寄贈しました。



大橋会長(右)にタオルを寄贈する高田会長

町が盛興建設株式会社と 岩田地崎建設株式会社に感謝状



岩田地崎建設の渡邊取締役専務

盛興建設の原社長(中央)

町は11月29日、地域貢献に尽力した岩田地崎建設株式会社(岩田圭剛代表取締役社長)に、12月16日には盛興建設株式会社(原広吉代表取締役社長)にそれぞれ感謝状を贈りました。

岩田地崎建設株式会社は、町交流促進センターこぶしの湯あつま周辺の清掃や草刈りなど、環境整備に尽力。また、盛興建設株式会社は、厚真中央小学校や厚真放課後こどもセンターの清掃活動による環境整備に貢献されました。

オンライン座談会を開催 「胆振東部地震から4年、被災地の現在とこれから」

2022オンライン座談会「胆振東部地震から4年、被災地の現在とこれから」(主催・胆振総合振興局、胆振町村会、厚真・安平・むかわ町)が11月29日、総合福祉センター大集会室で開かれ、被災3町から現状と課題が報告されました。

座談会には、被災3町の首長をはじめ、オンラインを含めて約160人が参加しました。事例発表では、株式会社あつまみらい代表取締役の山口善紀さんがハスカップを使った商品開発やハスカップのPRについて、一般社団法人厚真町観光協会事務局の原祐二さんが震災後の被災地現地ガイドや新たに取り組んでいる学習プログラムなどを説明しました。

意見交換で、宮坂町長は「あらゆる世代で未来や夢を追いかけられる地域にしたい」と結びました。



被災地の現状や今後について報告されたオンライン座談会

家畜自衛防疫組合が養鶏事業者に消石灰を寄贈

厚真町家畜自衛防疫組合(山田澄恵組合長)は12月2日、高病原性鳥インフルエンザ対策の負担軽減のため、町内で採卵鶏を飼育するテンアール株式会社(小林廉代表取締役)に消毒用の消石灰を寄贈しました。

山田会長は「資材などが高騰して、経営は三重苦ですが、皆で頑張っ乗り越えたい」と話しました。

町も町内3カ所の養鶏事業者に防疫剤などを配付しました。



消石灰を贈る山田組合長(右)と小林代表



JAとまこまい広域が町に牛乳贈答券を寄贈

JAとまこまい広域の宮田広幸代表理事組合長は12月19日、町内のこども園の全幼児向けに牛乳贈答券250セットを寄贈しました。

牛乳の消費拡大や子どもたちの健康増進などが目的です。同席したこども園つみきの油谷諭園長は「おやつなどで、牛乳を提供したい」と感謝しました。



町に牛乳贈答券を寄贈する宮田組合長(左)



町有形文化財に指定した出土品について説明する学芸員

厚幌ダム遺跡群の出土品 329点を町有形文化財に一括指定

町教育委員会は、厚幌ダム遺跡群で発掘された約400年から1000年前のアイヌ文化関連の出土品が学術的に貴重な資料と裏付けられたため、11月25日に町有形文化財に指定しました。

指定したのは、上幌内モイ遺跡や上幌内2遺跡、オニキシベ2遺跡で発掘された日本刀や京都産の道内最古の和鏡、大陸産の装飾品などで、329点を1点として一括指定しました。

出土品は、アイヌ民族の文化のルーツや活発な交易などを伝える貴重な資料で、事前に連絡があれば、軽舞遺跡調査整理事務所で見学することができます。

厚真消防団の出初め式

令和5年厚真消防出初め式が1月6日、総合福祉センター大集会室で行われ、44人が一年の無事を誓いました。

式典のみ行われ、北海道知事賞(功労賞)を受賞した五十嵐次男団長(1月29日ご逝去)をはじめ24人に功労賞などを伝達。管理者の宮坂町長は「しなやかで安全なまちを再構する中核として、皆さんにはご尽力をお願いしたい」と呼びかけました。



消防職団員に式辞を述べる管理者の宮坂町長



鏡抜きで新年の幕開けを祝う関係者たち

厚真町新年交礼会「飛躍の年」を願う

町議会、JAとまこまい広域、町商工会、土地改良区、農業委員会、苫小牧広域森林組合の6団体主催による厚真町新年交礼会が1月10日、総合福祉センター大集会室で開かれ、約130人が出席しました。

主催者を代表して、世話団体である商工会の寺坂文秀会長が「国内経済が停滞することのないように私たち6団体は行政や関係機関と一丸となって課題に取り組みます」とあいさつ。6団体の代表と宮坂町長の7人で鏡抜きをして、新年の幕開けを祝いました。